

シグマ研究委員会  
63年度第6回運営委員会議事録（案）

日時： 平成1年1月20日（金） 13:30～17:30  
場所： 日本原子力研究所 本部 第3会議室  
出席者： 鹿園（委員長、原研）、北沢（東工大）、瑞慶覧（日立）、村田（N A I G）、若林（動燃）、五十嵐、金子、長谷川、水本（原研）  
幹事： 菊池、中川（原研）  
オブザーバー： 飯島（N A I G）、神田（九大）、松延（住友原工）

配布資料

1. 63年度第5回運営委員会議事録（案）と Action List
2. バーン問題に関する五十嵐氏から A.B. Smith 氏への手紙と A.B. Smith 氏から W.G. Cross 氏への手紙
3. 原子力学会（核データ・炉物理）合同特別会合プログラム
4. 炉定数専門部会SWGリーダー会合議事録
5. J E N D L - 3以降の核データセンターの活動
6. シグマ委員会名簿
7. Summary Record of the Tenth Meeting of the Scientific Coordination Group (SCG) of the Joint Evaluated File Project (1988.11.15)
8. M. Salvatores 氏から五十嵐氏への手紙
9. 核データ研究会について
10. 中重核評価サブワーキンググループ作業報告および作業計画
11. ( $\alpha, n$ ) 反応データSWG活動報告

議 事

1. 前回議事録確認

前回（12月16日）の議事録（配布資料1）を確認した。

## 2. 事務局報告

中島 豊氏（原研）がNEAデータバンクから戻られたことを五十嵐氏が報告した。

## 3. 宿題事項の処理報告

W.B. Wilson 氏（LANL）が原研に来る意志があることを、吉田氏（NAIG）が片倉氏（LANL）に連絡を取って確認した。さらに五十嵐氏が Wilson 氏に手紙を出して確認すると五十嵐氏が報告した。（他の宿題は関連議題の中で報告された。）

## 4. バーン問題のその後について

IUPAP委員山口氏（東海大）に連絡したところ、9月のIUPAP会合で話しをするために資料が欲しいとのことで、A.B. Smith 氏（ANL）に手紙を出した旨五十嵐氏が報告した。（配布資料2）

## 5. 原子力学会特別会合について

配布資料3の通り（核データ・炉物理）特別会合のプログラムを決定したことを中川氏が報告した。なお、発表者には発表時間を短くし、討論時間を長くするよう伝えることとした。

## 6. 専門部会本年度活動と次年度計画

### 1) 炉定数専門部会

配布資料4を長谷川氏が説明した。

#### FBR積分テストSWG

JENDL-3TR1のベンチマークテストとアジャストメントを行った。来年度も、JENDL-3の特性を明らかにする作業や、重核・構造材の断面積、 $\chi$ のアジャストメントを行う。

#### LWR積分テストSWG

JENDL-3TR1のベンチマークテストを行った。来年度は、 $k_{eff}$ の減速材/燃料比依存性などの問題点を検討するとともに、アジャストメントも行ってみたい。

#### 遮蔽積分テストSWG

JENDL-3TR1のベンチマークテストを行うための群定数ライブラリーを作成中である。来年度は、JENDL-3のベンチマークテストを完了させる。2次ガンマ線データについてのベンチマーク

テストも行う。

#### 核融合炉積分テストSWG

現在、JENDL-3TR1から群定数を作成している。2月に群定数を配布し、ベンチマークテストを行う。来年度は、ベンチマークテストを完了させるとともに、7月頃に専門家会議を開いて意見交換を行う。

#### 標準群定数検討SWG

本年度は活動なし。来年度、JENDL-3のベンチマークテストが一段落してから活動を本格化する。

### 2) 核データ専門部会

#### 核データ評価WG中重核データSWG

水本氏が配布資料10により、本年度の活動と来年度計画を説明した。63年度は、データの作図や、計算モデル、文献の紹介等を主に行ってきた。来年度はパラメータの検討、高エネルギー中性子入射反応断面積の評価、荷電粒子反応、放射化断面積の評価・検討、核物理理論の検討等を行う。

#### 核融合炉核データWG

神田氏が、次の通り説明した。

今年度は $^{14}\text{N}$ と $^{16}\text{O}$ の評価を行った。今後は、より高いエネルギーのデータの検討、DDXデータの解析などを考えている。

これに対して、飯島氏から国際協力による放射化断面積のテストが今年の終わりごろから始まる事、PKA・KERMA関係データファイル作成も作業量が多いので核融合炉核データWGでもやって欲しい事などの意見が出された。また、村田氏から最近話題になっているビーム工学関係のデータも必要になるのではないかとのコメントが出された。

#### 特殊目的核データWG( $\alpha, n$ ) 反応データSWG

配布資料11を松延氏が説明した。63年度末までに、Li、B、C、O、Na、Si、の( $\alpha, n$ )反応データの評価を終了する。来年度は測定データの再検討、計算手法および計算コードの比較検討等を行う予定である。

### 7. JENDL-3以降について

JENDL-3以降の核データセンターの活動について配布資料5

を五十嵐氏が説明し、討議を行った。原研内では汎用ファイルの作成はJENDL-3で一度止めて、今後は使用目的を定めた特殊目的データファイルに力を入れると説明していることが鹿園氏からコメントされた。

討議では次のような意見が出された。

- ・今後どういうデータが、どういう目的で必要なのかあまり明確でない。
- ・今後の活動分野を広げるには、その分野の人に来てもらって、話を聞き、外からのニーズを調べた方がよい。
- ・FBRに代わる今後の大きな目標をみつけていく必要がある。
- ・WGの再編成も考える必要があろう。再編成については運営委員会で決める必要がある。

来年度以降の活動については、核データ専門部会でも評価活動タスクフォースの答申をもとに議論を行う。運営委員会でも今後引き続き議論することとした。

#### 8. 委員名簿改訂について

五十嵐氏が現在までにわかっている名簿の改訂について報告した。熱中性子散乱WGは63年度で活動を中止する。また、核構造グループのアドバイザーは置かないことにする。

#### 9. 核データ研究会について

配布資料9をもとに、瑞慶覧氏が核データ研究会の反省を述べた。

1989年核データ研究会の委員長は井頭政之氏（東工大）にお願いすることにした。

#### 10. シグマ委員会62、63年度報告作成について

今回の2年報は水本氏、瑞慶覧氏とこの2人に決めてもらう残り2名を加えて4名で執筆することとした。

菊池氏が、原子力学会和文誌11月号に予定しているJENDL-3の特集記事について説明した。次回の運営委員会までに、菊池氏が執筆担当者を決ることとした。

#### 11. その他

- 1) JEF-2にJENDL-3の $^{16}\text{O}$ のデータが採用されることにな

った（配布資料8）ことを五十嵐氏が報告した。

2) 原子力学会の「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会は2年3月31日まで継続することになったことを中川氏が報告した。

3) 次回は3月17日（金）に行う。

FP核データSWGと重核データSWGの活動報告、NEACRPの報告などを行う。

## Action List

No	担当者	内 容	期 限
1	事務局	井頭政之氏（東工大）に1989年核データ研究会のプログラム委員会委員長をお願いする。	次 回
2	水本、 瑞慶覧	2年報執筆者2名を決める。	次 回
3	菊 池	原子力学会 J E N D L - 3 特集記事の執筆者を決める。	次 回